

立春とは名ばかりの余寒の厳しきなか、本日ここに津山市制施行80周年記念式典を挙行いたしましたところ、公私なにかと御多忙にも関わりませず、国会議員の皆様をはじめ多数のご来賓並びに、津山市民代表の皆様のご臨席を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

さて、津山市は、和銅6年、西暦713年に「美作の国」が誕生して国府が置かれ、この地の中心となりました。さらに、慶長8年の森家入封後は、出雲街道や吉井川といった交通の要衝として、また山間の豊かな自然をいかしながら、名実ともに地域の政治、経済、文化の中心地として栄えてまいりました。そして昭和4年に県下3番目の市として、人口3万3千人余りで誕生して以降、鉄道の開通、上水道の整備などを礎に産業の進展を図り、また数度の合併を繰り返しながら市域を広げ、着実に発展をしてまいりました。平成17年2月には加茂町、阿波村、勝北町、久米町と合併し、人口11万人余りの岡山県北部の中核都市としてさらに充実し、その地位を揺るぎないものとするに至りました。

今日このように市勢が伸展しましたのも、熱意を持って取り組まれた先人たちのご努力と市民一人ひとりのお力が結集した成果であり、心から敬意と感謝を捧げるものであります。

さて、城下町津山の歴史には、素朴な人々のたゆまぬ営みとともに、国を導くような先覚者たちの大きな業績が刻まれております。特に、江戸時代後期から明治にかけて活躍した宇田川家、箕作家を中心とした洋学者たちは、いちはやく西洋の学問を研究し、日本の近代化を支えてまいりました。こうした活躍の背景には、津山藩の知性への強い憧憬と、探究心といった風土がありました。私たちはこの進取の気性を誇りの源泉とし、これを受け継ぎ、新しい歴史と文化を築いていか

なければなりません。

現在、社会は大きな転換期を迎えています。少子高齢化、人口減少時代の到来や、地球環境問題の深刻化など、人類史上例を見ない構造の変化に直面しています。地方におきましても、あらゆる面で自尊、自立、自助による地方分権の、一層の推進が求められています。

今、まさにこうした環境の変化に柔軟に対処し、将来を見据えた新しい時代を切り拓く時であります。もちろん津山市も多くの課題を抱えてはおりますが、市民と一丸となり課題解決に取り組めば時代の先駆けになれると確信しております。私たちはこの80年の節目を契機に、今一度、津山市の歴史や文化、伝統を「温故知新」の精神で誇りを持って振り返り、その歩みの中で得てきた教訓を活かし、そして未来志向で更なる飛躍を期したいと存じます。これからもともに手を携えながら、すべての市民が「しあわせ」を実感できる「しあわせ大国 つやま」の実現に向けて、全力を尽くしてまいります。

結びにあたり、今日まで市勢発展のためご尽力を賜りました多くの皆様に対しまして重ねて感謝を申し上げますとともに、本日ご臨席の皆様方のますますのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます、式辞といたします。

平成21年2月11日

津山市長 桑山博之